【令和３年度第１回目業務報告　報告内容】

自治防災課　主査　田村　知弘

今回、東日本大震災に係る被災市町村に対する職員派遣として、岩手県陸前高田市に赴任し、令和３年４月より１年間、防災局防災課付けで、地域防災関係業務に従事する機会を与えていただきました。

赴任前は、防災の業務に従事していたこともあり、陸前高田市の地名や、東日本大震災で甚大な被害を受けた地域であることは承知していましたが、現在の陸前高田市の復興状況や従事する業務内容などについては、前もっては全く分からない状況でした。そのため、今回の業務報告では、陸前高田市の概要や、現在従事している業務内容、陸前高田市での生活状況等について、下記のとおり報告したいと考えます。

１　陸前高田市の概要

（１）陸前高田市の位置・沿革

私が派遣されることとなった岩手県陸前高田市は、岩手県の南東部にあり、北は気仙郡住田町、東は大船渡市、南は宮城県気仙沼市、西は一関市に接しています。本市は、高田町、気仙町、広田町、小友村、米崎村、矢作村、竹駒村、横田村が合併し、昭和３０年１月１日に市制が施行されました。現在の市域は、矢作町（下矢作地区・二又地区・生出地区）、横田町、竹駒町、気仙町（今泉地区・長部地区）、高田町、米崎町、小友町、広田町の８町（１１地区）です。

（２）東日本大震災に係る陸前高田市の被災状況

東日本大震災に係る陸前高田市の犠牲者数（行方不明者を含む。）は、人口２４，２４６人に対し１，７５７人で、石巻市に次いで２番目、岩手県内では最大の被害を受けました。また、津波浸水域人口に対する犠牲者率では１０．６４％で、これは、岩手・宮城・福島県沿岸３７市町村中で最大の数値です。※1東日本大震災発生から今年で１０年が経過しましたが、震災前に市街地があった場所は大部分が津波の被害を受けた影響で更地が多く残っており、現在も街の至る所で復興整備に向けた各種工事が進められています。

※1 陸前高田市東日本大震災検証報告書（平成２６年７月陸前高田市発行）２頁より抜粋

２　報告内容

（１）所属組織・業務状況報告

ア　所属組織

現在私が所属している防災局防災課は、正職員２名（防災課長及び課長補佐）、派遣職員２名（名古屋市からの派遣職員、私）、任期付職員１名の５名で組織されています。陸前高田市は、東日本大震災により、震災発生時に在籍していた４４３名（正職員２９５名、嘱託・臨時職員１４８名）の市職員のうち、１１１名（正職員６８名、嘱託・臨時職員４３名）が犠牲となった※2 ことや、市庁舎をはじめ、震災前の市街地の大部分が壊滅的な被害を受けたことなどを受け、現在も岩手県内各市町村や名古屋市をはじめ、全国から多くの派遣職員が業務に携わっています。

※2 陸前高田市東日本大震災検証報告書（平成２６年７月陸前高田市発行）１１０頁より抜粋

イ　現在勤務している庁舎の様子

陸前高田市は、震災で市庁舎及び消防署が甚大な被害を受け、消防・防災機能の低下を招いたことから、新たな消防庁舎として、平成２６年１１月に、「陸前高田市消防防災センター」が整備されました。当センター内は、主に陸前高田市消防本部・消防署として利用されていますが、災害時における防災機能を集約する観点から、防災課も市庁舎内ではなく、当センター内に設置されています。また、陸前高田市は震災時、市庁舎が被災し、災害対策本部を市庁舎とは別の建物に移さざるを得なかった経験をされていることから、防災課の執務室の向かい側には、災害対策本部が常設された会議室があります。

陸前高田市消防防災センター

常設された災害対策本部

防災課　執務室内の様子

辞令交付の様子

ウ　業務状況

今年度私が従事することとなった業務については、下記のとおりです。

№.	分担事務	分担事務の詳細
1	備蓄関連	備蓄物資等の購入及び管理
2		物資供給の総括
3	啓発関連	防災マイスター養成講座に関すること
4	訓練関連	土砂災害避難訓練に関すること
5	津波関連	日本海溝特措法に関すること
6	土砂災害関連	土砂災害防止法に基づく基礎調査に関すること
7		土砂災害・洪水ハザードマップに関すること
8	水防関連	水防計画及び水防会議に関すること
9		水門・陸門の自動閉鎖システムに関すること

業務内容については、備蓄関連業務など、亀岡市で経験したことのあるものもありますが、№.５や№.９など、沿岸地域特有の業務もあるため、現在勉強しながら業務を進めているところです。

また、陸前高田市独自の取り組みとして、№.３の「陸前高田市防災マイスター養成講座」というものがあります。当該講座は、将来の大規模災害発生に備え、防災に関する知識や技術を習得し、地域における防災リーダーとして活躍できる人材を養成することを目的とした、市民向けの講座です。防災に関する資格では、「防災士」が有名ですが、防災士の資格認定のためには高額な受講費用や県外での講座受講が必要となるため、より防災に関する間口を広げ、市民が気軽に学べるような仕組みを作ろうと、平成３０年度から実施されているものです。全８回ある講座のうち一定数以上の講座を受講することで、「陸前高田市防災マイスター」としての認定を受けることができ、これまでに合計５１名の方が陸前高田市防災マイスターの認定を受け、中にはボランティアとして防災に関する市民向けの勉強会の講師などで活躍されている方もいらっしゃいます。令和２年度は新型コロナウイルスの影響で中止となりましたが、今年度は定員５０名のところ、既に約３０名の方が申し込みをされており、市民の方々の防災に関する意識の高さに驚いています。来月から毎月１回講座が開講されるため、市民の方々に少しでも防災に関する関心を深めていただけるよう、しっかりと業務に取り組んでいきたいと思います。（講座の内容については次回以降に報告したいと思います。）

（２）生活状況報告

陸前高田市に赴任してから１ヶ月が経過し、こちらでの生活にも少しずつ慣れてきました。赴任するまでは、陸前高田市は海に近いイメージがあったのですが、震災前に沿岸部にあった街の中心部分は津波の被害にあったため、今も沿岸部に近づくにつれてかさ上げされた空き地が目立ち、復興までの道のりの長さを感じます。

現在私は、市役所庁舎から徒歩１０分程度の場所にある仮設住宅で生活しています。震災後に市内各地に建設された仮設住宅は、多くが解体されたとのことですが、仮設住宅での生活は、被災者の方々の震災当時の生活を体験させていただいているような気持ちになり、本当に貴重な経験をさせていただいているなと感じています。

また、市役所庁舎も震災で被災したことから、震災後約１０年間仮設庁舎で業務を行ってこられましたが、今年３月に新庁舎が完成し、ゴールデンウイーク明けから新庁舎での業務が開始されます。私は新庁舎内で業務ができないのは少し残念ですが、

次回以降に新庁舎の様子についても報告できればと思います。

現在住んでいる仮設住宅

現在使われている市役所仮設庁舎

（３）陸前高田市内の震災遺構について

東日本大震災発生から１０年が経過しましたが、震災の記憶を後世に伝えるため、市内には多くの震災遺構が残されています。ここではそれらの震災遺構のうち２つを紹介します。

ア　奇跡の一本松

震災前は国の名勝に指定され、市民から愛されてきた白砂青松の高田松原。過去の津波から街を守ってきた約７万本の松は、東日本大震災の津波による影響で、ほとんどが流されてしまいました。そんな中、１０ｍを超える津波から生き残った１本の松が、復興のシンボルとして保存整備されています。

イ　旧気仙中学校

旧気仙中学校は、気仙川の河口に位置し、東日本大震災で校舎の屋上に達する１４．２ｍの津波に襲われました。３階建ての校舎は全壊しましたが、生徒と教職員は高台に避難し全員が無事でした。

これまでは立ち入り禁止でしたが、５月より内部の一般公開が開始されたため、後日見学したいと考えています。